

図書館友の会けやき ニュースレター 2019.3.28

REPORT トークイベント「本を創る 本を売る」 —図書館友の会けやきと左京図書館で共催して—

2019年2月2日、「本を創る 本を売る～「京都」で「本」革命。新しい風は如何に吹いたのか。」と題してけやき・左京図書館共催のトークイベントが開催されました。これまでけやきが主に企画してきた講演会ですが、今回は司書さんの積極的な提案をけやきが後押しする形で企画、実現に漕ぎ着けました。好評を博したトークイベントの報告とともに、それぞれの立場からの思いを紹介します。

トークイベント報告

2019年2月2日 於・左京図書館階上会議室

2018年度の講演会は、京都で本のムーブメントを起している画家・装丁家の矢萩多聞さんと古書・ミニプレス&ギャラリーのレティシア書房店主小西徹さんをお迎えして、トークイベントを行いました。本を創る側、本を売る側の視点でお話が聞けました。38名の参加者がお二人の軽快なトークに魅了され、会場は熱気に包まれました。

矢萩多聞さんは、「たまたま装丁家になりました」と第

一声。中学1年で学校をやめ、10代は、絵を描き、インドと日本を半年ごとに往復して暮らし、日本帰国時に絵の個展を開く生活をしていたそうです。以下矢萩さんのお話によると、20歳の時、横浜の小さな出版社の社長と出会い、初めて『インド・まるごと多聞典』を独学ですべてを創り上げた。今では、装丁家として500冊ほど手掛けている。本には、表紙のデザインや材質、大きさや形など創り手のこだわりが現れる。なかでも、表紙をみれば、製作者の本気度がわかる。そこで「本のヌード展」と題して、本のカバーを外して並べた展示会を開催した。また、表紙が中身よりはみ出ている部分を「ちり」と呼ぶのだが、その美しいデザインをちり美人として流行らせたいとの思いも語られました。

一方、小西徹さんは、輸入レコードを扱う会社と大手書店を経て、自分の良いと思う書籍を紹介したいと現在の書店を開業。本屋の仕事とは、色々な人の色々な思いのつまった本を必要としている人に届けること。「本屋はお客さんの半歩前を歩け！3歩前だとマニアックなものになって



矢萩多聞さん（左）と小西徹さん（右）

しまう。」を教訓に、この半歩と3歩の匙加減の感覚を研ぎ澄ますことに心がけているそうです。日本の大手出版社は、出版することがゴールになっており、誰に届けるのか、どう売るのがみえていない。実は、日本では少人数の小さな出版社が、7割も占める。日本の自費出版物（ミニプレス）は海外と比べると価値が低く見られがちだが、丁寧に取材、撮影、編集、執筆をされたものや個性的なものも多く、完成度が高いものが増えている。この自費出版物でこの時代に風穴を開けたい、とも話されました。

また、矢萩さんは、ご自分の自費出版物は、クリックひとつで何でも買える今、この本を買うためにこの本屋に行こうと感じてほしいから、取り扱い書店を各都道府県で一か所ずつ限定しているとのこと。

そして、お二人は、新刊を扱う従来型の書店が姿を消しつつある一方で、特に京都では、個性的な小さな本屋が増えている現状を話されました。本屋、出版社は、元々、小商いだったが、大型、商業化していった。小商いに戻った

ほうがよい。さらに、小商いで世界中で人気を博しているインドのタラブックス社にも話が及びました。手漉きの紙にシルクスクリーンによる手刷りの印刷で美しい本を創っており、月1000部ほどしかできない。しかし、タラブックスで本づくりに携わる人々はこのペースで幸せに暮らしているし、倍にすると出来上がりも変わってくるから、これ以上大きくするつもりはないのだそうです。

また、本離れが叫ばれる中、コミック部門では、電子書籍が紙書籍を抜いたが、コミックや雑誌は電子でもよいとは思うものの、本のざらつきなど質感も含めて味わいがあるから、紙は淘汰されることはないだろう、とも語られました。

最後に、「本のカバーは要らないのではないか？」との参加者の質問に矢萩さんは、「流通の段階で汚れたら返品になって困るから必要とされているが、自分も必要ないと思っているので、あえて手垢を付けたような仕上がりのカバーや汚れにくい上質な紙の表紙やカバーなしの本に挑戦している」と回答。踏み込んだお話が聞けました。

お二人のお話を聞いて、本の見方、出会い方の視野が広がり、改めて本って豊かだなあと実感。お二人とも、一つのことから想像の翼がはえ、いきいきと楽しんでおられ、そのパワーをお裾分けしてもらいました。図書館や本屋さんに出かけ、お気に入りの一冊に出会える時間を楽しみたいと思います。今後展覧会が予定されている矢萩さんや企画展を随時開催している小西さんから、ますます目が離せません。 (山口)

矢萩さん 紹介の本

- 「偶然の装丁家」 矢萩多聞/晶文社
- 「たもんのインドだもん」 矢萩多聞/ミシマ社
- 「タラブックス インドのちいさな出版社、まっすぐに本をつくる」 能瀬夏子、矢萩多聞、松岡宏大/玄光社
- 「つなみ」 ジョイデブ&モエナ・チットロコル / 三輪舎
- 「水の生きもの」 ランバロス・ジャー / 河出書房新社
- 「インドしぐさ事典」 矢萩多聞/ambooks
- 「本を贈る」 (アンソロジー) /三輪舎
- 「荒野の古本屋」 森岡督行/晶文社
- 「あしたから出版社」 島田潤一郎/晶文社

当日紹介された本

小西さん 紹介の本

- 「冬の本」 (アンソロジー) /夏葉社
- 「ことばの生まれる景色」 辻山良雄 / ナナロク社
- 「那覇の市場で古本屋」 宇田智子 / ボーダーインク
- 「はしっこに、馬といる」 河田棧/カディブックス
- 「APIED」 アピエ (年2回発行の文芸誌)
- 「書店員あいうえお」 いまがわゆい
- 「気になる京都4 あの店・あの場所」 風の駅
- 「猫はしっぽでしゃべる」 田尻久子/ナナロク社
- 「インド・まるごと多聞典」 矢萩多聞/春風社

レティシア書房

中央区高倉通二条下ル 12:00~20:00 月曜日定休

参加者の感想から

- ・本も本屋さんも紙も好きな者にとって、とても楽しい時間でした。手ざわりを楽しみながら、本の内容を味わう…、「身の丈に合う」という言葉も好きなので、共感できることが山もりです。
- ・書店にも色々ある事や、面白い視点があって、これから本屋さんに行く楽しみができた気がします。
- ・本のことをお話をたっぷりと聞いて、楽しいと同時にたっぷりとした満足感があります。
- ・全国チェーンでなく、顔の見えるつながりの中で暮らしていくのっていいなあと思います。元気の出るトークありがとうございました。
- ・新たな本の世界をかいま見ることができました。紹介してくださった本の数々、早速よみたいと思います。

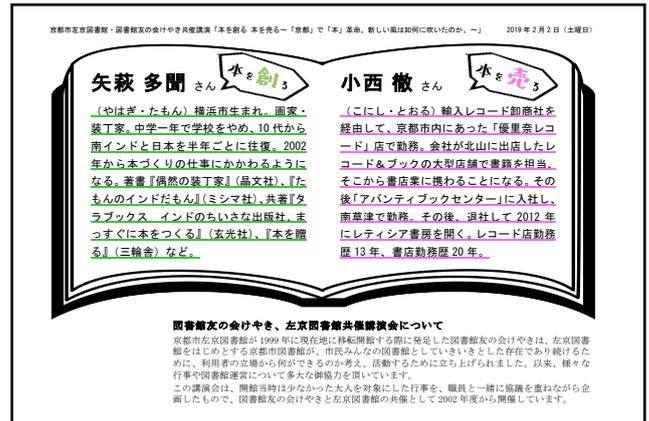
「本の都」で「本を語る」・裏話

左京図書館司書・神田千砂

「京にとくのぼらせ給ひて、物語の多くさぶらふなる、あるかぎり見せ給へ」
 「早く京都に行かせてください、そしてたくさんあるという物語を、あるだけ全部読ませてください」

『更科日記』菅原孝標の女

千年の昔から、京都は本の都でもありました。
 そして平成も終わろうとする現在、京都で起きている本の



当日パンフレット

ムーブメント。京都を舞台にした小説群のヒット、魅力的な書店・古書店・ブックカフェのオープン、本屋さん巡りのガイドブックの発売など、「本の街・京都」は日本中の本好きの憧れの地となりつつあります。そして、左京区にはその「聖地」が多い！

その中であって図書館はだいぶ遅れている。これではいけない。何かムーブメントを起こせないか。それなら、ムーブメントを起こした人に訊けばいいんじゃないか。個人的に訊くのもありだけど、絶対オモシロイ話になるから、できれば大勢に聞いてほしい。けやきの皆さんと共催している講演会の講師としてお呼びしたらいいんじゃないか。

…という流れで、「本に携わっている人のお話はどうぞですか。出版社さんとか、古本屋さんとか」という懇談会での提案に始まり、講師の方の具体的な人選を相談していく中で「レティシア書房さんは？」「矢萩多聞さんは？」と推薦があり、じゃあ対談で、という話になり、依頼してみるとお二人がお知り合いでとんとん拍子に話が進み…。と行けばよかったです。日程の調整には非常に苦労しま

でほしい一冊です。

この本で取り上げられた本は私の愛読書が多く、さらにレティシア書房でもお好きな方の多い作家ばかりなのです。星野道夫、須賀敦子、メイ・サートン、石牟礼道子、谷川俊太郎、永井宏、今村夏子、宮沢賢治、高橋源一郎、武田百合子、庄野潤三、ブローティガン、アーヴィング、そしてブルース・チャトウィン等々。著者の書物に対する真摯な愛情と、奥行きのある文章をお読みいただき、これからの読書計画に役に立ててください。
 (レティシア書房・小西徹)

ことばの生まれる景色

けやきの
 の
 本棚

辻山良雄文 nakaban絵
 ナナロク社 2018年

No.58

話題の新刊書店「Title」店主の辻山良雄さんが選んだ大切な本40冊への簡潔な文章と、著者の本への深い愛情を汲み取って、絵を描いたnakabanさんの作品がセットになった読書好きなら、ぜひ読ん



会場ではたくさんのお本を手にとることができました

した…。が、過ぎてしまえば良い経験。

「図書館は敵とっていらっしゃるかもしれません
が…」というこちらの発言に対し、「まだそんなことを言
っている出版社とは付き合いたくないですね！」と言って
いただけて感涙にむせんだり、「異業種で本を扱ってみ
る」など素敵なアイデアと、良い経験をたくさんいただき
ました。

せっかく京都に住んでいます。憧れの本の都で、本好き
な方々の刺激になる仕事をしたい！と、思いを新たに
した講演会でした。

トークイベントを終えて

けやき 永井麻里

改めて…、皆さんは公共図書館にどんなことを望んでお
られますか？

「誰もが、知り、調べ、本の世界を楽しむことを支えて
くれるところ」という公共図書館の役割は、インターネッ
ト上に情報が溢れている現在も変わらない。むしろ、貧富
の差が拡がり、様々な分野で「誰もが」という保証がない

がしろにされている事が問題となっている今こそ、公共図
書館が果たす役割は大きい。

我々図書館友の会けやきは、地元の左京図書館をはじめ
京都市の図書館が、地域の情報発信の基地としてもっとも
っと市民の生活に根付いて欲しいと願い、図書館に様々な
提案を行ってきた。講演会・学習会などの開催もその一つ
である。図書館で、本・資料の閲覧・貸し出しができるだ
けでなく、貴重な情報を直に伝え、さらにはそれが本・資
料と人を繋ぐ端緒となる機会をぜひ設けて欲しい、と要望
した。

左京図書館での講演会が実現したのは2002年度。現在
地への移転開館から4年目のことである。それまで京都市
の図書館、特に地域館ではこのような行事の前例が少な
かったこともあり、図書館との共催行事ではあるが、企画や
講師の選定・依頼はけやきが担当した。その後、十数年に
わたる図書館とけやきの協働の中で、多くの図書館主催行
事は、図書館職員さんが中心となって担われることとな
った。

左京図書館では、ここ数年、司書さん企画の魅力的な行
事や展示・ブックリストの発行などが続いていて、とても
うれしい。共催行事である講演会にも司書さんに積極的に
関わっていただけたら、講演会がより豊かなものになるの
では、と昨年の図書館との懇談会で提案した。今回のトー
クイベントを創り上げ実行する中で司書さんが得られた多
くのことを図書館の仕事に反映していただけるのは、利用
者として本当にありがたい。これからも司書さんの積極
的な取り組みを、利用者・友の会の立場で支え協力してい
きたいと思う。

声めぐり

齋藤陽道著 晶文社 2018年

いまばくが一番対談したい人は写真家の齋藤陽道さんです、
と各所で吹聴している。この本は幼いころから聴覚に障がい
を持っている彼が、辛い日々を経て、自分の声を取り戻すまでを

語ったモノローグ。「声」は音声によるコミュニケーションだ
けを指す言葉ではない。あらゆる行為が「声」になり、伝え
る、伝わる。それに気がついたとき、世界は豊かな輪郭をみせ
てくれる。「聞く」というのは井戸を掘るようなもの、そこに
水脈があると信じている者だけが水を飲むことができる、と言
ったインドの人形使いの言葉を思い出した。(矢萩多聞)

REPORT 2018年度 左京図書館

読み聞かせ交流会

毎秋、京都市左京図書館主催・けやき企画協力で開催の「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」。14回目を迎えた今回も例年通り3回の連続講座とし、のべ96名の参加がありました。

第1回 えほんたいけん・えほんたんけん

～加古里子の絵本を読んでみよう～

講師 中川あゆみさん（名古屋女子大学講師） 11月5日

左京図書館「読み聞かせ交流会」の第1回目は、「えほんたいけん・えほんたんけん～加古里子の絵本を読んでみよう～」と題し、中川あゆみ先生にご講演いただきました。当初10月1日に予定されていましたが、台風のため11月5日に延期して行いました。

14回目となる中川先生の講演ではじめて、一人の作家にスポットを当てた演題となりました。まず先生は参加者に「絵本を読み聞かせるとき、作者名は読んでいますか？」と問いかけました。今から読む本は一人の人間が生み出したものであることを子供たちに分かってもらうために、必ず名前を紹介してほしいと前置きをして、本題へ移りました。

2018年5月に92歳で亡くなった加古さん。飛行機乗りで憧れる軍国少年でしたが、視力が悪く軍人になれませんでした。東大工学部に入学した年の夏に終戦を迎えます。卒業後、会社勤めをしながら、貧困地区の住民の生活向上のための「セツルメント活動」に参加、そこで子どもたちと出会います。ここで紙芝居をしたりお話を語り聞かせたりしたことが、後の作家活動へとつながっていきます。

加古さんの作品は「物語絵本」「知識の本」「こどものあそび」の大きく3つに分けられます。どの作品を作るときにも徹底した資料集めを行い、1冊の本を書くのに10年費やしたといえます。そして、おはなし絵本でも、科学読み物でも、常に生活者がいるという視点を忘れませんでした。

今回、作家と作品についてのお話を聞く前に、参加者がペアになって加古作品を読みあい、先生の解説を聞いた後で改めて同じ作品を読みました。すると前には見えなかった、加古さんのこだわりが浮かび上がってきました。加古さんの絵本の大きな魅力の一つである「尽くし絵」。『カラスのパンやさん』に出てくるたくさんのカラスたちも一羽ずつ丁寧に描き分けてあり、ひとりひとりが個性を持っていることを伝えています。また働くことの大切さが書かれている本が多いことにも気づきました。

軍人を志した自らの反省から「自分でいろんなことを判断できる賢い子になってほしい。そのためのお手伝いがしたい」と、子供たちに人生を捧げた加古さん。その情熱を子供たちに伝えるために、加古さんの絵本をその名前とともに子どもたちに手渡したいと感じました。（澤田）

第2回 やってみよう！読み聞かせ

講師 永井美穂さん（左京図書館司書） 10月4日

10月4日に第2回が行われました。まず、「やってみよう！読み聞かせ」では永井司書から、これから読み聞かせを始める方に向けて選本に関して気を付けた方がよいことを、具体的に本を提示しながら解説がありました。

同じ本を聞き手も読み手も楽しめるよう、事前に把握し

サムライでござる

広瀬寿子作 曾我舞絵 童話館出版 2012年

「サムライでござる」は、哲也がお祭りのむしや行列を見ていたら、登場しないはずの少年が馬にまたがって来る。少年は

馬ごと道路に飛び出してはねられました。そしてその少年は、天正12年からタイムスリップしてきたサムライでした。

ハラハラドキドキするお話です。ぜひ読んでみて下さい。

（小4・小森創太）

ておくべき子供の人数や会場の広さなど、案外気が付かないことも教えていただきました。

用意してくださった本は13冊。一冊ずつ解説されて、集団読みの場合の注意点がよく分かったと思います。その後実際に読む時の注意として持ち方、ページのめくり方、速度、間の取り方など説明がありました。(北園)

第2回 科学絵本・科学読み物ブックトーク

角から始まる話 ～里山の動物と私たち～

講師 島崎真紀子さん(京都科学読み物研究会会員) 10月5日

たくさんの本とともに置かれた大きな箱。とても気になります。中から立派な鹿の角が出てきました。そして、人とシカの関わりを書いた本『鹿よおれの兄弟よ』を聞きました。次にシカのことを詳しく知りたいと思ったら、シカの生態を書いた本を開いてみましょう、と2冊の本が登場。シカの子ども愛くるしい姿などが印象的です。しかし、昨今はシカが害獣として報道されることが多くなっています。それはどうしてでしょう?との問いかけ。一筋縄ではいかないことようです。そこで子ども向けの本から大人向けの本まで、関連の本を比較しながら読んでいきます。そうすることによって、現在人間との間に起こっていることについて徐々にわかってきます。

今回のテーマでは、「里山」の定義を理解し、調査途中のことはそのように理解して読み、多数の意見を知ることこそ大切と気づかされました。紹介された本や講師の解説を通じて、シカが害獣といわれるようになっている原因には、人間が当たり前に行っていることや、山に手をかけることが少なくなって、致し方なく行っている行動などが見

えてきました。同様のことがイノシシやサルなどにも言えるでしょう。

シカの本は10冊紹介されました。関連としてイノシシや野生動物について9冊。そのほか、「『かがくのとも』で読む里山の動物」、「幼児から楽しめるタヌキとキツネの絵本」お話会に、と「シカ、タヌキ、キツネが主人公のおすすめの絵本」、「さらに知りたいとき(中学生以上)」と合計39冊という多数の本を、様々な状況を想定してリストアップしていただきました。講演を聞かれた方が今後どのような場面でこのリストを生かして、子どもたちに届けてくださるか楽しみです。(北園)

第3回 小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

10月9日

絵本入門講座第3回目はワークショップです。例年通り少人数のグループに分かれ、絵本を読み合い、気づいたことを話し合い、後で、各グループで読まれた絵本、話し合われたことを報告交流しあうという内容です。

今年度は、左京区内6校の小学校読書ボランティアの方と、図書館副館長、けやきのメンバー、21名が3つの会場に分かれました。

1人1冊、持ってきた本をみんなの前で読み聞かせします。「子どもたちに読んで、よかったので」「今度読んでみたいと思っているので」「昔話を伝えたくて」など、まず、この本を選んだわけを話します。

「30分の読み聞かせの時間の途中で、リラックスして聞いてもらえるものを読んでいます」という理由から、繰り返しの言葉のところでは子どもも声をそろえて読んで楽し

昭和を駆け抜ける

Run through the Showa period

林忠彦写真 クレヴィス 2018年

「酒場の狭いスツールの上でだらしなく片膝を上げて座る笑顔の太宰治」。「林忠彦」の名前は知らなくても、この写真は見たことがあるのでは。戦後、その人となりや作風まで感じさ

せる文豪たちの肖像写真で名を博した林忠彦。平成の終わりになって、再評価が始まっていますが、人物ばかりではなく、報道写真に始まり東海道の風景写真が遺作となった彼のドラマチックな作品群は、まさに昭和という時代を証言するものです。

(左京図書館司書・神田千砂)

んだという参加型の本。高学年に朗読をしているという男性は「絵本を読み聞かせている人もいるが、僕には朗読があっていると思うので」と話されていました。子どもたちに読み聞かせる前に、一度みんなで集まって選書の時間を持っているという学校がありました。「自分だけで選ぶより、本の幅が広がって勉強になる」ということでした。

それから、どのように読んだのか聞いてもらいます。ボランティア1年目の人から10年を超える人まで、みんなが読み聞かせし、絵の見え方、声の聞こえ方、ページのめくり方、問の取り方など気づいたこと、疑問に思ったことを話し合いました。

私は、うまく読むこと以上に、この本を子どもたちに届けたいという思いを込めて、ていねいに読むことの大切さを改めて思いました。

みなさんに絵本を読んでもらって、誰かが自分のために読んでくれるうれしさ、絵を見てお話を聞くことの楽しさを感じ、読み聞かせの魅力を確認する場にもなりました。

(田中)

けやきの活動記録

2018年5月～2019年3月

- 2018/5/14 ニュースター56号・総会・図書館懇談会の案内、活動報告、印刷・発送
- 6/11 第20回定期総会、第16回図書館懇談会、ボランティア交流会
- 6/29 左京区ボランティア連絡会出席(増井・永井)
- 7/上旬～ ニュースター57号原稿作成・編集
- 9/上旬～ 「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ
- 9/28 ニュースター57号特集のための座談会開催
- 10/1 「読み聞かせ」交流会第1回、台風のため中止・延期
- 10/4.9 「読み聞かせ交流会」第2回・第3回開催
- 10/30 ニュースター57号印刷・発送
- 2018年度活動方針・予算書2017年度会計決算書発送
- 11/5 「読み聞かせ交流会」第1回開催
- 11/上旬～ ニュースター58号原稿作成・取材・編集
- 11/上旬～ 講演会について図書館と検討・講師依頼等準備
- 11/17 「大人のための工作会 御朱印帳を作る」に参加、取材
- 12/1 第18回「おとなのための語りを楽しむ会」開催
- 12/15 冬のスペシャルおたのしみ会に協力
- 12/上旬～ 図書館で発表会のチラシ配布
- 12/中旬～ チラシ作成等講演会の準備
- 2019/1/下旬～ 「えほんのひろば in きょうと」準備
- 1/30 近畿公共図書館協議会研究集会で「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」の活動について報告(永井)
- 2/2 けやき・左京図書館共催事業「TALK EVENT 本を創る 本を売る」を開催
- 2/15～3/17 「図書館で発表会」
- 3/上旬～ 「えほんのひろば in きょうと」チラシ作成・配布
- 3/28 ニュースター58号印刷・発送
- <図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜)
- 2018/5/26. 6/23. 7/28. 8/25. 9/22. 10/27. 11/24.
- 2019/1/26. 2/23. 3/23
- <絵本学習会> (第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日)
- 2018/5/25. 6/22. 7/13. 9/28.10/26. 11/16.30. 12/14.
- 2019/1/25. 2/22. 3/8.
- <事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1月曜)
- 2018/5/14. 6/4. 7/9. 9/3. 10/4.30. 12/3. 2019/1/7. 2/4. 3/4.
- <「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
- (毎週木曜日10:30～12:00)
- 2018/5/3.10.17.24.31. 6/7.14.21.28. 7/5.12.19.26.
- 8/2.9.16.23.30. 9/6.13.20.27. 10/4.11.18.25.
- 11/1.8.15.22.29. 12/6.13.20.
- 2019/1/10.17.24.31. 2/7.21.28. 3/7.14.21.28.

TOPICS 左京図書館40周年記念事業に参加して

京大生を打ち負かせ！ビブリオバトル IN 左京図書館 10月14日
大人のための工作会「御朱印帳を作る～左京ご利益本めぐり～」

11月17日

左京図書館初の企画ビブリオバトルと大人のための工作会は、どちらも大盛況、参加者にとって大満足の催しであった。

ビブリオバトルでは、京大ビブリオバトルサークルは絵本『水の国の迷路 水族館から川、海、深海の旅へ』『よるくま』と『ハケンアニメ』、中学2年生が『京都寺町三条のホームズ』、飛び込み参加の小学3年生が『科学探偵VS.学校の七不思議』を思い入れたっぷりに紹介。立ち見も多く見られた聴衆が選んだチャンプ本は『京都寺町三条のホームズ』だった。

御朱印帳作りには、ほぼ定員いっぱい19名が参加。司書さん・職員さんによる周到な準備と当日のサポートのお陰で、素晴らしい仕上がりの朱印帳が完成。最後に紙や製本・左京区の寺社など朱印帳にちなんだ図書の紹介があり、出来上がったばかりの「京都・左京文学散歩」のお土産も。

ぜひ来年度以降も継続して開いて欲しい。(永井)

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会(毎月第4土曜日 11:00)に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

- ◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

- ◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。
- ◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

けやき情報版

赤ちゃん絵本ふれあいタイム

時：毎週木曜日 午前10時30分～12時

所：左京図書館絵本コーナー

サポーターが個別に絵本を読んだり、絵本探しのお手伝いをします。

参加者同士の交流も。

えほんのひろば in きょうと

時：4月14日(日) 10時～15時

所：左京図書館の上3階会議室

独自の切り口で選んだ絵本350冊が全て表紙を見せて並びます。寝転んで、テントに潜り込んで、読んでもらって、大人も子どもも、絵本の楽しさ・深さを堪能できます。

春のスペシャルおたのしみ会

時：4月20日(土) 11時～

所：左京図書館の上3階会議室

パネルシアターやペープサートなど、楽しいプログラムがいっぱい。

編集後記

「けやき」の創刊は1999年11月。左京図書館が現在地に移転開館して半年後で、それまで司書さんのみで担当されていたおたのしみ会にボランティアが協力するようになったことや、利用者で賑わう館内で見えてきた課題を伝えています。

さて、この創刊号から続く人気コーナーが「けやきの本棚」。今号ではトークイベントのゲストのお二人にもお勧めの一冊を紹介して頂きました。ぜひご覧ください。(島崎)

1月に近畿公共図書館協議会研究会で『赤ちゃんの本との出会いに寄り添い続けて～左京図書館「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」15年750回の取り組み～』と題して報告することになり、活動日誌や年度ごとの活動報告、ニュースレターなど関連の記録を見直した。近畿の図書館関係者にユニークな活動の意義に共感していただけた喜びとともに、ボランティア皆で支えあい延べ1万人超の参加者を得た活動の継続とそれらをきちんと記録することの大事さを改めて思った。(永井)

◇けやき 第58号 2019年3月28日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : info@totomo-keyaki.com